

ITSのあらたな局面

New Stage of Intelligent Transport Systems (ITS)

巻頭言

これからのITSに求められるもの

Future Expectations for ITS

世界的なモータリゼーション(車社会化)の拡大は、産業の発展や人々の暮らしの改善に大きく貢献してきましたが、交通事故や渋滞の増加などの社会的な問題も増大させました。ITS (Intelligent Transport Systems : 高度道路交通システム)は、近年のICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術)の発展によって、事故や渋滞などの様々な道路交通問題の解決を進めてきました。最近では、排気ガスによる地球環境への悪影響の拡大が地球規模での課題となっており、ICT技術を応用した広域システム制御技術、環境改善や省エネ技術の活用によって、道路交通システムの効率向上や環境調和の推進に向けた取組みが進んでいます。

京都議定書でわが国は、2008年から2012年までの平均で、1990年に比較して温室効果ガスを6%削減することが義務付けられています。2008年前半は原油価格の急騰、後半には世界的な経済危機により大量消費による経済成長のシナリオにかけりが見え、エコロジー社会実現への取組みはかつてないほど重要性を増しています。ガソリン車の燃費向上やハイブリッドカーの実用化など、車の環境改善や省エネは大きく向上してきましたが、いっそうの排気ガス削減のためには、交通流をコントロールすることによる渋滞緩和など、道路インフラシステムが大きな役割を担います。

また、わが国では2006年に、IT新改革戦略の一つとして、「世界一安全な道路交通社会の実現」に向け2012年までに交通事故死者数を5,000人以下にすることが目標に掲げられています。交通事故死者数は、各種の安全対策により減少傾向ですが、目標達成のためには事故発生そのものを減らす必要があります。各種の安全装備により車の安全性は高まっていますが、前方の危険警告や歩行者及び自転車との衝突回避などは、道路インフラシステムと車が連携した対策が必要になっています。

このように、安全と環境改善や省エネのためには、車と道路インフラシステムの協調連携がますます重要になってきています。東芝は、ITS事業において、長年培ってきたノウハウに加え、画像処理技術、システム制御技術、情報処理技術に至る幅広い技術力により、安全な道路交通社会と環境調和型社会の実現に寄与していく所存です。

真崎 俊雄
MASAKI Toshio